

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT 2023 SERIES

Round.3

SUZUKA GT 450km RACE

2023年6月3日(土)～4日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

予選の遅れを取り戻し 2戦連続の表彰台を獲得

土曜日(予選日)の天候は晴。台風2号と梅雨前線の接近に伴う大雨は去り、台風一過の好天に。しかし、朝一のコースはとどころ濡れており、9時10分からの公式練習では、吉田選手が時間を置いてからコースに入ります。川合選手と合わせて30周走行し、ベストタイムは吉田選手が5周目にマークした1分57秒562。順位は4位で、GR Supra GTはサクセスウェイト(51kg)の影響を感じさせないスピードを発揮しています。

ノックアウト予選(Q1)はA、Bの2組に分かれて行われ、GR Supra GTはB組に出場。川合選手は予選開始の合図と同時にコースに入り、4周目にアタックを行います。コース後半までノーミスでまとめたものの、シケインの進入で挙動を乱してスピン。すぐにコースに復帰し、残り時間ギリギリで再度アタックを試みますが、タイムは1分58秒617。順位はB組10位で、今シーズン初のQ1敗退(予選20位)となりました。

決勝日の天候は曇。決勝では2回の給油義務が課されるため、チームはスタート直後に給油のみのピットインを行い、レース中盤に2回目の給油とタイヤ交換を行うレースプランを作成。レース後半でのジャンプアップを狙います。スタートドライバー、川合選手は作戦通り1周目終了時にピットイン。短い給油を行い、同じ作戦をとる#7 M4の前でピットアウトします。コースに復帰した川合選手の順位は25位。翌周にはピットアウトしてきた予選4位の#2 GR86をホームストレートでかわし、ピットイン組の先頭(24位)に立ちます。7周目にGT300の車両がトラブルでストップ。すぐにFCY(フルコースイエロー)となり、8周目にSC(セーフティカー)が導入されます。13周目からレースが再開され、ライバルのピットインにより川合選手の順位は10位に上昇。さらにトップとの差もわずか11秒ほどとなり、SC導入が大きなアドバンテージとなりました。上位勢のピットインは続き、川合選手は26周目に3位、29周目に2位へ。

レースの約半分を過ぎた36周目、川合選手が先陣をきって2回目のピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行います。作業に時間がかかり、同時に入った#7 M4の先行を許します。コースに復帰した吉田選手の順位は21位。2周後には#2 GR86も2回目のピットインを終え、吉田選手の前で復帰しており、実質的なトップ3は#7 M4、#2 GR86、吉田選手となります。ピットでのロスを取り返すべく猛プッシュする吉田選手。他車のピットインにより、順位は急上昇。46周目に6位、翌週に4位、50周目には3位となり、レースは終盤に突入します。3台のうち、最もペースが速い#2 GR86ですが、直線スピードの速い#7 M4にフタをされている間に、吉田選手が接近します。51周目の終わりにはコンマ1秒以下まで追いつき、3台がトップ集団を形成。しかし、吉田選手のタイヤは摩耗が進んでおり、#2 GR86に仕掛けるまでの速さはありません。ところが55周目、GT500とGT300車両によるクラッシュが発生。すぐに赤旗が提示され、レースは中断となります。復旧は難しく、54周終了時点でレースは終了。#52 GR Supra GTは3位に入り、2戦連続の表彰台を獲得しました。なお、クラッシュした2人のドライバーに大きなけがはなく、無事であることが発表されています。



決勝結果 (GT300 クラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 3位 (54周、1時間59分33秒096)
予選: 20位 (1分58秒617)

■ DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) 朝のフリー走行でいつもより上位の4~5番手につけることができたので、タイヤとセットアップがこれまでの鈴鹿戦と比べて整っているなという気がしていました。実際は川合選手のアタック時にミスってしまい、速さを出し切れなかったのですが、チームに対して申し訳ない気持ちがあります。とはいえ、攻めた結果というか、ドライバーならあり得る話なので、もったいなかったのですが仕方ないと思います。

(決勝後) タイヤの摩耗が進行していて、前に追いつくのが精いっぱいでした。2号車は前がいなければどんどん離れていったと思いますし、7号車は同じぐらいのペースでした。正直、勝負を仕掛けられるほどの速さはなく、後ろとのマージンを使って逃げきればと思っていたところ、SCが入りました。タイヤに余力がなく、レースが再開したら、ぼくらは後続に抜かれていたと思います。今週末、結果だけを見ればジャンプアップできてよかったのですが、ドライバー側とチーム側、ちょっとずつのミスがあったので、それぞれを改善し、後半戦を戦っていかないとはいけません。まだ、シーズンの中盤なので、ランキングより、一戦一戦を大事に戦っていきたくと思います。



川合孝汰 選手

(予選後) 自分の中ではいいアタックができていて、タイヤのグリップレベルも高く、セクター3まではそこそこのタイムできていたのですが、最後のシケインのブレーキングで芝生にタイヤを落とし、スピンしてしまいました。時間が20~30秒残っていたので、必死に立て直して再度アタックしたのですが、タイヤ的にもグリップが落ちていて、あとコンマ2秒足らず、Q1を通すことができませんでした。自分がいい流れを崩してしまったので、それがすごく悔しいですね。

(決勝後) 1回目のピットインでは同じ戦略をとっていた7号車の前で出られたので、それは大きかったです。そのあと2号車がピットに入ったのですが、向こうは満タンで出ていったので、そのタイミングでうちが前に出られました。それも大きかったです。予選でのミスを取り返したいという思いがありましたが、昨日と同じことを繰り返してもダメですし、気分違って違うミスをしてダメです。自分ができる最大限の仕事はやったつもりですが、ライバルに引かかっているときに2号車に抜かれてしまい、悔いが残ります。もうちょっと元気のある走りがあれば良かったのですが、リアタイヤがだいぶきつかったです。



GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	Studie BMW M4(BMW M4 GT3)	54周
2位	muta Racing GR86 GT(トヨタ GR86)	54周
3位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR Supra)	54周
4位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	54周
5位	GAINER TANAX GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	54周
6位	SUBARU BRZ R&D SPORT(スバル BRZ GT300)	54周

天候:晴 路面:ドライ ※トップ6まで(出走27台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	38
2位	2	muta Racing INGING	38
3位	52	埼玉トヨペット Green Brave	37
4位	7	BMW Team Studie×CRS	33
5位	65	K2 R&D LEON RACING	32
6位	18	TEAM UPGARAGE	23

トップ6まで

【次戦予告】 第4戦 8月5日(土)~8月6日(日) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■ PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社セーフティライフ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC



※50音順